

問1 日本では、金などの鉱物資源の国内産出量が、中国やオーストラリアといった主要な産出国に比べて極めて少ない状況にあります。このような背景から、廃棄された携帯電話や家電製品に含まれる有用な金属を回収し、再び資源として活用する取り組みを、ある場所に例えて何といいますか。（2018年 愛媛公立入試 類似）

1. 都市鉱山 2. リサイクル工場 3. 最終処分場 4. クリーンセンター

問2 大都市周辺で行われる農業が、宮崎県や高知県で行われる促成栽培などの遠隔地農業と比較して、経営上で有利な点として最も適切な説明はどれですか。（2021年 鳥取公立入試 類似）

1. ビニールハウスや温室を利用して、他の地域が出荷できない冬の時期に野菜を生産できる点。 2. 大消費地までの輸送距離が短いため、輸送費を低く抑えられ、農産物の鮮度も保ちやすい点。 3. 標高の高い冷涼な気候を利用して、夏にレタスやキャベツなどの野菜を出荷できる点。 4. 広大な平野を活かして、大型機械による大規模な土地利用型農業を展開できる点。

問3 三大都市圏を除く地域において、バスの輸送人員が減少し路線の廃止が進む一方で、国内の宅配便取扱数は急増しています。このような状況を背景に、宮崎県などで実施されている「貨客混載」の仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 滋賀公立入試 類似）

1. バスの空きスペースを活用して荷物を運ぶことで、物流の効率化と公共交通の維持を両立させている。 2. 宅配便の増加に対応するため、既存のバス路線をすべて廃止し、貨物輸送に特化した道路を整備している。 3. バス会社が宅配業務を独占的に行うことで、地域の物流コストを大幅に引き上げることが目的としている。 4. 荷物の重量を利用してバスの走行を安定させ、乗客の安全性を高めることを最大の目的としている。

問4 1980年代半ば以降の日本の自動車産業に関する統計において、国内での生産台数が横ばいであるのに対し、外国に工場を建設して現地で組み立てを行う割合が急増しています。このような生産形態を何と呼びますか。（2025年 岐阜公立入試 類似）

1. 海外生産 2. 輸入促進 3. 加工貿易 4. 地産地消

問5 1960年代の高度経済成長期、地方から東京や大阪などの大都市圏へと大量の人口が流入しました。これにともない、都市部では深刻な住宅不足が発生し、その解決策として都市の郊外に計画的に建設された大規模な住宅地の名称として適切なものはどれですか。（2024年 群馬公立入試 類似）

1. ニュータウン 2. 工業団地 3. リサーチパーク 4. 限界集落

問6 日本が海外から輸入しているエネルギー資源のうち、2016年の統計において、輸入相手国の1位がオーストラリア（26.9%）、2位がマレーシア（18.6%）となっている資源の名称を答えなさい。（2019年 鳥取公立入試 類似）

1. 液化天然ガス（LNG） 2. 原油（石油） 3. 石炭 4. 鉄鉱石

問7 エコツーリズムが「持続可能な地域社会」の実現に寄与すると考えられている理由として、その仕組みの背景や目的を説明したものとして正しいものはどれか。（2023年 愛知公立入試 類似）

1. 自然環境を観光資源として収益化することで、保全活動に必要な資金を継続的に確保できるから 2. 一度に大量の観光客を呼び込むことで、短期間で最大限の経済的利益を得ることを優先しているから 3. 地域の自然を完全に保護区に指定し、人間の経済活動を完全に排除することが目的だから 4. 伝統的な産業を廃止し、最新の工業団地を誘致するための土地を確保することを優先しているから

問8 岡山県が含まれる瀬戸内工業地域の工業構成に関する説明として正しいものはどれですか。製造品出荷額の割合において、金属工業が約20%、機械工業が約14%であるのに対し、約39%と最も高い割合を占めている工業の種類を選択肢から選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 食料品工業 2. 機械工業 3. 化学工業 4. 金属工業

答え合わせ・解説

問1	答え 1 都市鉱山	廃棄された電子機器の中には、金や銀、レアメタルなどの貴重な資源が豊富に含まれています。日本のように天然の地下資源が少ない国において、これらの廃棄物を貴重な資源の供給源と捉える考え方を「都市鉱山」と呼び、持続可能な社会を築くための重要な手段となっています。
問2	答え 2 大消費地までの輸送距離が短いため、輸送費を低く抑えられ、農産物の鮮度も保ちやすい点。	近郊農業の最大のメリットは、巨大な市場である「大消費地」が隣接していることです。これにより、トラック輸送にかかる費用（輸送コスト）を節約できるほか、収穫したばかりの「野菜」を新鮮なうちに消費者に届けることが可能になります。他の選択肢にある「出荷時期をずらす工夫（促成・抑制栽培）」や「冷涼な気候の利用（高原野菜）」は、主に都市から離れた地域が輸送コストの不利を克服するために行う工夫です。
問3	答え 1 バスの空きスペースを活用して荷物を運ぶことで、物流の効率化と公共交通の維持を両立させている。	統計資料では地方の公共交通の衰退と物流需要の増加という対照的な動きが見られます。この両方の課題を一挙に解決する手段が貨客混載です。物流業者にとっては、人手不足の中で効率的な配送ルートを確認できるメリットがあり、バス会社にとっては、乗客が少ない時間帯や区間でも収益を上げられるメリットがあります。これにより、持続可能な地域社会の形成を目指しています。
問4	答え 1 海外生産	1980年代、日本の輸出拡大に伴いアメリカなどとの間で貿易摩擦が激化しました。これを受け、日本の自動車メーカーは輸出を抑える代わりに、消費地に近い外国に直接工場を建てて生産・販売を行う「海外生産」へとシフトしました。これにより、現地の雇用を創出し、貿易摩擦を回避する狙いがありました。
問5	答え 1 ニュータウン	高度経済成長期には、第二次・第三次産業の発展にともない、就業機会を求めて多くの人々が地方から大都市圏へ移動する人口集中が起こりました。急増する人口に対して都市中心部の住宅供給が追いつかなくなったため、鉄道沿線の郊外にある山林などを切り開き、大規模な集合住宅群であるニュータウンが次々と建設されました。これにより都市圏が拡大する「スプロール現象」なども見られるようになりました。
問6	答え 1 液化天然ガス（LNG）	日本はエネルギー資源の多くを輸入に頼っており、この資源はオーストラリアやマレーシアなどのアジア・大洋州地域からの輸入が大きな割合を占めているのが特徴です。気体をマイナス162度まで冷やして液体にした状態で、専用のタンカーを使って運ばれます。
問7	答え 1 自然環境を観光資源として収益化することで、保全活動に必要な資金を継続的に確保できるから	単に自然を保護するだけでは、管理や維持にかかるコストが地域の負担となります。エコツーリズムを通じて環境の価値を経済的価値に変えることで、その収益を保全活動に再投資できるようになり、結果として長期的な保護と地域振興が両立できるようになります。
問8	答え 3 化学工業	岡山県の倉敷市水島地区などには、大規模な石油化学コンビナートが形成されています。そのため、瀬戸内工業地域の中でも特に化学工業の割合が高いことが特徴となっており、製造品出荷額のうち38.6%を化学工業が占めています。これは機械工業や金属工業を大きく上回る数字です。